

ドイツ連邦食料・農業省 農林漁業最新情報
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 42
2020・2・18

1 連邦食料・農業大臣：2019年度エコバロメーターを公表
ー有機食料への消費動向調査ー (2020・2・12)

連邦大臣クレクナーは有機専門見本市を開催し、その際 2019 年度エコバロメーターの成果を紹介した。ニュルンベルグで今日（2月12日）第31回有機食料世界見本市、オーガニック見本市が開催された。ここでは、110カ国から約3800の出展者が出品・紹介している。この見本市では、ドイツにおける有機食品の消費動向に関する今年のエコバロメーターを、紹介している。

中心的な成果：

- ◎ 2018年度は定期的に有機産物を購入が28%のみであった。
- ◎ 2019年度には有機産物について少なくとも時々手にするが90%以上存在する。
- ◎ 1週間ごとに購入する場合、食料のフェアな生産と並んで、特に地域性（86%）と有機分野の支援（79%）が、回答において最も重要としている。

専門家の分析によると、有機食品に対する需要はさらに増加する。これの販売は120億ユーロ（約1兆4400億円）強となり、9.7%の増加である。

クレクナー大臣：“有機産物はより強く市場潜在力を、増加させることを達成している。我々農業省は、多様な方法で有機農業を奨励している。成功裏に！ ドイツはEU内で最も大きな有機産物市場である。

有機経営の数が、この方向への転換に開かれていることを示している。有機経営への転換は、増大する有機経営数が証明し、この需要が後退することはない。連邦農業省は、特別な奨励プログラムを通じて有機農業を支援している。

有機農業に転換する農業者は、例えば転換一並びに維持奨励金を得られる。さらにヨーロッパ共通農業政策から、奨励金が供与される。

有機農業の将来戦略でもって、さらに有機食料分野の成長支援のための、重要な前提条件を創り出す。それは生産方法の調整と消費者との良好な相互性が重要である。そして増大する世界人口に食料を提供する観点が、明確である”と、大臣は続けた。

”我々は慣行のハイブリット農業の手法も必要とする。有機農業はさらに広範に生産的に、そして慣行農業は資源を大切に扱い、家畜の福祉に適応されねばならない。そしてその際、それは収益が得られること。我々は、政策として包括的に将来を目指した栽培方法のために、大枠条件を創り出すことである。それは有機農業であっても、慣行農業であっても。例えば、我々が昨年末に提起したところの畑作戦略でもって。”

エコバロメーターの更なる成果：

有機農業は地域性が高い。有機一慣行農業に際して潜在性は、特に地域性との結びつきが、有機農業に強くみられる。これはエコバロメーターの地域的な食料の重点が示している。有機食料について、特に地域からこの産物が由来していることが重要である。同時に信頼性と品質に、満足することが大きい。

有機生産された食料購入のための重要な購入先として、スーパーマーケットが挙げられ、また慣行農産物の購入場所としても重要である。既に前年有機産物購入のために、最も好ましい場所としてスーパーマーケットを、利用しているように。これは割引されるために（72%）。インターネットでの販売は少ないが（6%）、しかし、数年来連続して増加している。

有機産物の品目では、有機卵（66%）と有機果実と野菜（66%）、さらに頻繁に挙げているのが有機バレイショと有機パンの取り扱いについて、最も大きな変化を示している。ここではこれを定期的に購入する回答者が、10%ないし13%の割合であった。

研究の背景：

エコバロメーターは2002年以来、連邦食料・農業省によって定期的に提出されてきた。そしてこれは、有機農業とその他の形態の持続的な農業の連邦プログラムの確固たる構成要素になっている。有機食料の消費について、抽出電話インタビューで調査を行った。2019年度の調査は、2019年7月末から8月末にかけて、有限会社・応用社会科学研究所に委託し実施された。この調査は、1005人にインタビューしその結果が分析された。

2 2019 年度エコバロメーターの結果について

ー有機産物がさらに需要増加へー (2020・2・12)

消費者は頻繁に有機食料の購入を決めている。このことは、2019 年度の消費者アンケートによってもたらされた。この調査は、連邦食料・農業省 (BMEL) が委託し、その結果が 2020 年 2 月 12 日に公表された。ドイツにおいて第 2 回目のアンケート調査の中で、頻繁に有機食料を購入している人が 43%いる。そして将来的にも 90%以上の人々が、”最低でも時々”有機食料を手にしたいと、考えている。

有機食料の購入ー現在も将来も

最低でも機会あれば有機食料を購入する人が 41%である。

重点テーマ 2019：地域由来の食料が、有機農業と慣行農業において高い割合を示している。回答者の 80%強が、地域に由来する有機食料を重要としている。地域産物の供給は、すぐ近くの周辺で十分足りている。地域的な食料は、品質、概観そして味に関して大抵の回答者の心を打っている。勿論、回答者の約 40%が地域産物の価格が高いと感じている。特に 40~50 歳の年代グループが、価格を一番の問題としている。

有機食料購入の理由：

有機食料購入のための重要な理由は、回答者の 95%が「種に適した家畜の飼育」である。続いて 89%が「環境保護への貢献」、同時に「有機栽培の拡大」を明確に支援している。購入に際しての重要な観点は、「農薬残さのさらなる回避」並びに「社会的規準の維持（農業者の収入確保）」、「最上の新鮮さ」である。有機食糧の購入は、スーパーマーケットが優先している。しかし、週末市場、パン屋、肉店での購入もまた、常に好まれている。インターネットを通じた地域産物の購入は、これまで少なかったが、数年来継続的に増加している。

表一 1 有機食料の購入意識

項目	専ら購入	頻繁に購入	機会あれば購入	購入無し
現在	6 %	43	41	9
将来	8	50	35	7

資料：BMEL ドイツ連邦食料・農業省 以下同じ

表一 2 有機食料購入の理由

理 由	割 合
	%
家畜の種に適した飼育	9.5
地域由来/地域の農業経営支援	9.3
社会的規準/農業者の公正な収入確保	9.2
添加物ー加工補助物質の少ないこと	9.0
農薬」残さの回避	9.0
効果的な環境保護への貢献	8.9
健康強化のための健全な食料	8.9
有機農業の支援	8.6
生物多様性の奨励/維持のための貢献	8.5

表一 3 有機食料の購入

有機食料	専ら購入	頻繁に	機会あれば	購入無し	全く無し
	%				
有機卵	3.4	3.2	2.2	8	3
有機野菜ー果物	1.7	4.9	3.2	1	1
有機バレイショ	1.9	3.7	2.9	1.2	3
有機乳製品	1.8	3.3	3.5	1.1	3
有機パン類	1.2	3.2	3.8	1.5	2
有機肉ーソーセージ	1.0	3.2	4.0	1.4	7
有機生産の魚	1.3	2.8	2.9	2.1	8
有機生産した麺類 (小麦粉)	7	3.0	4.6	1.5	1
有機生産したアルコール無しの飲み物	5	1.6	3.4	3.8	6
有機菓子類	2	8	3.4	4.6	9
有機生産したアルコール飲料	2	7	2.4	5.4	1.3

表－4 有機食料の購入場所

購入場所	割合
	%
スーパーマーケット	8.8
デイスカウントショップ	7.2
パン屋	6.4
週末市場	6.1
肉屋	5.9
生産者の直売	5.4
有機店ないし自然食品店	5.2
ドラッグストア	4.2
有機スーパーマーケット	4.1
自然食品店	2.9
予約箱として	6
インターネットを通じて	6
売店（キオスク）とガソリンスタンド	3

3 連邦農業大臣が2020年度有機農業経営を表彰

(2020・1・23)

国際緑の週間で連邦食料・農業大臣クレックナーは、今日（1月23日）に今年度連邦有機農業コンクール優秀者を表彰した。大臣はこの記念祭において、20回目の表彰状を授与した。賞授与者に対して大臣は「有機農業を革新的にそして模範的に促進している」と、強調した。これらの経営は既に長期に、部分的にはさらに著しく長期にわたって、有機規則に則って取組んで来たことに対して、連邦コンクールで表彰された。

表彰者：

(1) ルーナ農場 (Hof Luna)

絶滅の危機に瀕していた有用動物の保護と育成のために、そして自然保護に長期にわたって参画、並びに多くの教育提供でもって、家族外の共同でもって経営統合を行った。

(2) シュロース農場 (Schloss Gut)

地域の価値創造チェーンの模範的な構築

(3) シンケラー農場 (Schinkeler Hof)

4つの有機経営の連携並びに伝統的な販売方法の継続する組織として。

クレクナー大臣：”我々は連邦コンクールでもって住民に呼びかけ、有機農業を実践するための基盤を創った。このため、最も良い証明は、今日の記念祭である。このコンクールは良い鏡となっている。20年来、有機農業経営はこの部門を促進するために、勇気と創造力を証明した。その際、我々自身有機農業に取り組むことで支援してきた。連邦プログラム有機農業と他の形態の持続的な農業（BÖLN）によって、連邦農業省は既に 1140 の研究計画を奨励している。予算は 2018 年に約 1000 万ユーロ（約 12 億円）増額して、現在 3000 万ユーロ（約 36 億円）弱を、毎年準備している。”

さらに EU-共通農業政策の第 2 の柱を通じて、有機農業における 300 万ユーロ（約 3 億 6000 万円）の資金が入っている。2018 年に有機面積への支援資金のために、連邦、各州と EU は 3 億 20 万ユーロ（約 36 億 2400 万円）支出している。さらに EU-委員会に対して連邦大臣は、EU-有機規則の整備に関して、実践的な問題解決のために尽力する。例えば家畜飼育。

背景：

表彰された経営は、それぞれ 7500 ユーロ（約 90 万円）の賞金を手にする。2001 年以来連邦農業省はこの賞でもって、方向性をもった計画で特別な成果をもつて、有機手法で管理する経営を表彰してきた。

2020年有機農業連邦コンクール

勇気と活動力そして経営主精神でもって新しい道を歩むために、今年再び 3 経営の優れた経営構想が、2020 年連邦コンクール有機農業に際して勝利に報いられた。連邦農業大臣クレクナーは、第 23 回国際緑の週間で 1 月 23 日にベルリンで、特別に成果のあった有機農業の 3 経営に、連邦省を授与した。

1 ルナ農場

この農場は評価分野「全計的な構想」において、特別な賞授与でもって表彰された。絶滅の危機に瀕している有用動物種の保持と飼育、自然保護並びに多様な景観形成に長年にわたって参画した。そして農場発展のための奨励とともに、家族外の共同体において経営の統合、多くの教育機会の提供、非営利団体として貢献した。

2 シュロース農場

この農場は生産、加工そして販売の分野において、特に継続性と特別な専門性を通じて、審査委員会を納得させた。

経営主夫妻が、地域の価値創造チェーンの構築を積極的に行った。これまで

構築してきた価値創造チェーンを通じて、周辺地域で積極的に食品の加工手工業育成に努めた。自らのロゴで農場独自の新しい有機一食料を開発した。

3 シンケラー農場

合同シンケラー農場は「生産、加工販売」の分野において、特別に賞に値いするとして以下の点において、表彰された。4つの有機一経営体の合同として連携した農業組織（Solawi）、そしてこの Solawi 一構想の発展、それぞれの個別経営での週末市場と農場直売店を通じた販売方法が優れている。

表彰された経営の詳細なプロフィール：

1 ルナ農場

経営主は新しい牛舎を建設した。これは絶滅の危機瀕しているアンゲラーアルター種 70 頭のために、特別に建設したものである。1987 年以来、有機団体デメター農業者は適応能力のある、そして遅い乳牛とそれを積極的に保存すること。さらに飼育上の発展に尽力したこと。乳牛群は経営構想の中核である。この乳牛は、脂肪含量 5%の非常に高価値な牛乳と、そして特に柔らかな肉を提供する。並外れたこの乳牛群は、後期飼育を含めて経営構想の核を形成する。これは「ウイヘルム ベートラム”有機一乳牛システム”と名付けている。この中には、農業上の利用と有機多様性の向上の最適な組み合わせが、含まれている。

4 km以上の生垣を重視

起伏の多いライネ山地における約 160ha の広大な畑一草地面積を、飼料生産だけでなく景観形成と積極的な自然保護に活用している。既に 4 kmの生垣よりも少ない生垣は、30 年にわたってこの農場の土地を囲ってきた。乳牛はこの茂みの枝と葉でもって、自らのミネラル物質の必要量をカバーしている。一方、発生した刻み小枝は、自ら製造する堆肥の重要な構成成分である。

農業と生物多様性との調和

経営主によると生物多様性の奨励を、集中的に農業と結びつけて有機一乳牛システムを、可能にしている。2018 年に多様な生垣林に、様々な 57 種の鳥の種類を確認している。そのうち、11 種がレッドリストに載っている。

2 シュロース農場

全チェーンが視野に：価値創造チェーンの概念でもって、スタートできない人は、一度この農場の主に相談すべきである。なぜならば、この農場管理人ペアーが、既に 4 年前にこの構想をもっていたために、自然一農場経営全ての産物について、独自の価値創造チェーンを組み立てている。

加工経営と多くの対話

具体的には、地域のパン屋や製粉業者、醸造一養蜂業者そして果実加工者を納得させている。この農場の食料を加工し、そして共同で販売している。

この構想は、地域の食料一個人商店、自然食品店、レストランそして幼稚園についても重要である。同じく販売についても、パートナーとして取り上げている。

この農場のロゴである食料は非常に高い評価

全ての産物は、勿論このロゴを添付している。長年来、高品質で地域的に生産される有機一食料でもって、顧客と結びついている。地域でもまた、今日まで多くの価値創造チェーンから利益を得ている。最終的にこの方法で、多くの新しい就業の場を創設しており、他方、就業を確保している。審査委員会が、この農場を 2020 年有機農業連邦賞でもって、表彰したもう 1 つの理由である。

3 シンケラー農場

農業について常に新たに考えることが、この農場でのプログラムである。これは連携した農業の手がかりのために、特に重要である。通常、消費者がこの構想に際して、最低 1 年の期間農場を支援し、そして収穫の一部を定期的に受け取っている。パン屋でのパン製品と並んで、年間を通じた様々な牛乳一山羊乳産物や野菜、薬草を提供している。

経営は生産に集中できる

連携は完全に揃えた物流を構成するので、経営は生産に十分集中することができる。連携の信頼性と確実性は、経営に非常に良く評価される。どのような割合で産物を、連携ルートにのせるかの決定は経営の自由になっている。2015 年にこの連携を設立以来、Solawi の数は 170 に増加し、そしてさらに増加傾向にある。

シンケラー農場の高価値な有機一食料と生産条件についての知識は、消費者のために生産のリスクの一部を担うことを準備している。経営主について、双方とも大きな信頼の言葉を寄せている。そしてそれは、この農場への最も良い信頼と成長をもたらしている。

2020・2・17 訳
青森中央学院大学
中川 一徹